

**授業概要**

世界経済の中で、アジア経済がどのような位置を占めているのか、これまでの歴史はどのようなようであったかについて、アジア経済の基礎知識を講義する。

授業では、様々なテーマからアジア経済全体を概観することを目標とし、テーマごとに解説していく。特にアジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）、東南アジア先進国（タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン）、ベトナムを中心に、事例を示しながら講義していく。

以上を通して、アジアの経済・地理・文化・歴史的内容を多層的に理解し、アジアにおける日本の立ち位置を把握するとともに、アジア経済の基礎知識を学ぶ。

**授業計画**

第 1 回	イントロダクション・全体の概要と目的を述べるとともに、授業内容について解説する。
第 2 回	変貌するアジア
第 3 回	アジア化するアジア
第 4 回	中国が変えるアジア
第 5 回	生産するアジア
第 6 回	資本がめぐるアジア
第 7 回	移動するアジア
第 8 回	革新するアジア
第 9 回	都市化するアジア
第 10 回	インフォーマル化するアジア
第 11 回	老いていくアジア
第 12 回	不平等化するアジア
第 13 回	環境問題と向き合うアジア
第 14 回	分かちあうアジア
第 15 回	競争するアジア、共生するアジア
第 16 回	筆記試験

**到達目標**

- 受講生がアジア経済の基礎知識を学ぶことを通して、世界経済に占めるアジア経済の立ち位置を、具体的事例とともに理解できる。
- 21 世紀の日本とアジアについて、学生一人ひとりが自身の考えを持つことができる。

**履修上の注意**

1. 講義内容や授業全体に関わる重要事項を第 1 回目に説明する。単位認定に関わるので、必ず第 1 回目の授業に出席すること。
2. やむを得ない欠席は「履修にてびき」に記載の手続きをすること。
3. 公共交通機関の遅延などのやむを得ない場合を除き、授業開始から 15 分以降の入室は、欠席として扱う。

**予習・復習**

予習：授業のレジュメを把握し、教科書の該当箇所と新聞・ウェブサイトで取り上げられているアジア諸国に関する記事をよく読むこと。

復習：配布した参考資料を読み、授業時に示す課題について回答レポートを作成すること。

**評価方法**

筆記試験 70%、授業後の回答レポートの提出状況 30%

**テキスト**

- 教科書名：『現代アジア経済論—「アジアの世紀」を学ぶ』
- 著者名：遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太
- 出版社名：有斐閣ブックス
- 出版年 (ISBN)：2018 年 (978-4-641-18442-8)